

# 登山月報

神崎新会長就任挨拶	1
平成22年度決算理事会	2
平成23年度通常総会	4
新連載 Mountain World 第31回	8
UIAA 登山委員会活動報告	9
山岳スキー競技シーズン報告	11
故中島龍さんを偲ぶ	12
JMA、寄贈図書、編集後記	13

## 会長就任の挨拶

神崎 忠男

田中文男前会長のあとを継いで、会長を拝命いたしました神崎忠男でございます。田中文男前会長には10年の長きに亘り、日本山岳協会の会長として、また登山界のリーダーとしてご活躍された実績と業績に対し敬意を表するとともに感謝申し上げます。

私自身は日本山岳協会での役歴も浅く、会長としての責務の重さに身のすくむ思いがしております。新会長が神崎と聞いても知らない方々が多く、「日山協大丈夫なのか」と不安感を抱かれる方も居られるのでは、と思います。わずかにこの2年間副会長として日山協に携わってきたこと、また1986年から1995年の約10年間常務理事を務めさせていただきましたが、国際部関係の役員として一時代前の経験は実績にはなりません。しかしながら、今回の4人の副会長人事をみて、どなたが会長になってもおかしくない実力者、また尾形事務局長兼専務理事としての陣容は心強いものがございます。まして強化された事務局、経験豊かな理事や常任委員に支えられ、皆でやる日山協の体制に恵まれ、ピークに向ってのトレースは付けられると信じております。

決った以上は、使命感、責任感をもって全力で会務に携わり、社会に信頼され期待される日本山岳協会を目指していく所存です。初めにも申しましたが、会長がもっとも日山協を知らない布陣ですが、この「知らない」ということを武器とし、またバネとして弾力性に富んだリーダーシップがとれたら、と考えております。既成の概念や事実にとらわれることなく時代に合った、体制、組織づくりを実践していきたいと思っております。

登山は多様化し、高齢化が目立ち、社会から見放されがちな昨今ですが、登山が育む「生きる力」を改めて見直したいと思っております。この「山が育む生きる力」を日常生活のなかに浸透させ、登山が親しまれ、楽しめるスポーツとして愛好家の輪を広げたいものです。「登山」を何とかする組織体制、いわば登山界づくりのリーダーシップを日山協が買ってでて、前向きな熱い思いで励行して行きたいと思っております。

いよいよ新公益法人としての出発を真近にして、組織、人事、運営、活動など新しい日山協が求められます。全国の都道府県岳連（協会）との連携、加盟団体の力強い参画と支援が日山協の今後の原動力になることを信じております。

皆で登山を考え、自分たちの楽しむ環境は自分たちで創るという心構えで、先人の残してくれた伝統や実績を守りつつ他の山岳団体とも交流しながら新しい時代の登山を見つめていきたいと思っております。

田中文男前会長はじめ、歴代の役員の方々に感謝し、関係各位のご指導、ご支援を切にお願い申し上げます。



### 神崎さんのプロフィール

1940年東京都生まれ、日大二高入学から日本大学経済学部卒業まで山岳部に所属。在学中中華民国親善学生登山隊に参加、卒業後は北極圏グリーンランド遠征隊や4回に及ぶエベレスト登山隊など世界各地の登山を経験。1995年には日本大学エベレスト登山隊の隊長を務める。現在は日本山岳会、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラストなどに所属、役員として活躍中。また、中高年の登山グループを率いて、精力的に登山活動を続けている。

# 平成22年度決算理事会・23年度通常総会を開催

## 平成22年度決算理事会報告

- 1 日 時：平成 23 年 5 月 15 日（日）  
午前 10 時 30 分～ 13 時 05 分
- 2 場 所：岸記念体育会館 102 ～ 103 号会議室  
東京都渋谷区神南 1-1-1
- 3 会議の成立状況（定款第 26 条）  
定数 32 名（定足数 22 名）、出席者 28 名、委任 1 名、  
欠席 3 名、計 32 名
- 4 出席者：田中文男会長（埼玉）、内藤順造副会  
長兼専務理事（特別）、粟飯原一成（京都）、神崎  
忠男副会長（特別）、本木總子副会長（東京）、小  
野倫夫（北海道）、清野孝（山形）、西内博（茨城）、  
仙石富英（栃木）、佐藤光由（群馬）、高山雅夫（千  
葉）、堀井昌子（神奈川）、遠藤家之進正和（新潟）、  
安藤武典（愛知）、堀井啓介（岐阜）、山並久次  
（大阪）、遠山誠之介（和歌山）、天津邦之（島根）、  
亀尾崇（鳥取）、木村康男（香川）、工藤文昭（熊本）、  
野田孝（鹿児島）、青木茂（特別）、尾形好雄（特別）、  
相良忠麿（特別）、谷口浩平（特別）、永井豊（特  
別）、長谷川茂（特別）各理事 以上 28 名  
（委任者）牧野治生（福井）  
（欠席者）小島亮治（宮城）、北山真（特別）、寺  
内丈行（特別）  
（同席者）監事：福田昇、岡本忠良

### 5 田中会長挨拶

会長として理事会に望むのは、最後になるが、退任挨拶は、午後の通常総会ですので、早速、決算理事会を開催したい。本日も沢山の議題を用意してあるので、限られた時間の中ではあるが、十分に審議をして頂き、総会に臨みたい、と挨拶。

### 6 議事役員の選出

定款第 25 条の規定により田中会長を議長に選出

### 7 議事録署名人の選出

定款第 30 条の規定により小野倫夫（北海道）理事及び永井豊（東京）常務理事を指名

### 8 議 事

#### (1)第 1 号議案 平成 22 年度事業報告について

尾形事務局長から資料を事前配布しているので、詳細説明は割愛し、各担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたいと報告。

◎第 1 号議案、提案通り承認。

#### (2)第 2 号議案 平成 22 年度収支決算報告について

相良常務理事より議案書に基づき、平成 22 年度の収支決算及び一般会計、特別会計の明細説明が報告された。その後、福田監事より監査報告を受け、質疑を受けた。

◎第 2 号議案、提案通り承認。



理事会で挨拶する田中会長

#### (3)第 3 号議案 平成 23 年度収支予算に係る付帯議決について

尾形事務局長から平成 23 年度上期の予算執行をみて予算に変更が生じた場合、補正予算を組んで対処することの承認と補正予算は常務理事会に一任することの承認を求める提案がなされた。

◎第 3 号議案、提案通り承認。

#### (4)第 4 議案 公益社団法人化に向けた定款及び定款施行細則の変更案について

内藤専務理事及び尾形事務局長から公益法人化に向けた定款、定款施行細則、加盟団体規程等の変更案について説明され、議案書に基づいた方向性で準備作業を進めていくことが承認された。

（以下の質疑応答があった。）

安藤：構成員の正会員①は、各岳連（協会）の会長を指すものと思うが、22 条の役員の選任で役員は、正会員より選任となっている。定款施行細則で定める役員の定年が 70 歳となると、現状にそぐわない。各岳連（協会）会長で 70 歳以下の方は、少ないので、これでは役員の選任が適わない。

尾形：ご指摘の通り、整合性の無い部分が多々あるので、皆さんからご意見を頂きながら整備していきたい。

内藤：正会員と代表者の件については、現状に合うようにしていきたい。唯、役員の定年制については、組織の活性化など将来的に見た場合、定年制は設けたほうが良い。

清野：評議員会を無くすとするとチェック機能はどうなるのか。評議員が無くなり、理事も減員されるとなると日山協と地方岳連のパイプはますます細くなり、地方の声が反映されなくなる。地方の意見を吸い上げる別な機関を立ち上げるのか。これらの定款変更等については、どういう機関で、どういう内容で検討していくのか聞きたい。

尾形：評議員会に代わる機関としては、加盟団体規程に提示している理事長会議のような諮問機関を考えている。

定款変更等を含めた公益法人化に向けた作業は、事務局主体で進めている。本日の定款変更案は、持ち帰って内容を検討して頂き、頂戴した意見をまとめて、改めて11月の臨時理事会に諮りたい。

#### (5)第5号議案 正会員の承認について

定款第5条第1項第1号の規定により、以下の正会員の承認が提案された。

服部一雄（青森）、濱田久晴（宮城）、石倉昭一（埼玉）、松元邦夫（東京）、水島彰治（神奈川）、内藤順造（山梨）、阿部信一（新潟）、高田和彦（石川）、林辰夫（京都）、中西研一（兵庫）、小林弘之（山口）、峯本典寛（愛媛）

#### ◎第5号議案、提案通り承認。

#### (6)第6号議案 特別会員の推薦について

定款第5条第1項第2号の規定により、以下の特別会員の推薦が提案された。

神崎忠男（東京）、國松嘉仲（滋賀）、八木原罔明（群馬）、尾形好雄（東京）、相良忠麿（神奈川）、永井豊（東京）、堀井昌子（神奈川）、谷口浩平（神奈川）、寺内丈行（東京）、北山真（東京）

#### ◎第6号議案、提案通り承認。

#### (7)第7号議案 会長・副会長の推薦について

定款第11条第1項の規定により、以下の会長及び副会長の推薦が提案された。

会長：神崎忠男（東京・新任）

副会長：内藤順造（山梨・再任）、國松嘉仲（滋賀・新任）、八木原罔明（群馬・新任）、松元邦夫（東京・新任）

#### ◎第7号議案、提案通り承認。

#### (8)第8号議案 理事の推薦について

尾形事務局長より通常総会で選任される以下の理事候補者の推薦が提案された。

小野倫夫（北海道）、服部一雄（青森）、尾形一幸（福島）、西内博（茨城）、仙石富英（栃木）、佐藤光由（群馬）、高山雅夫（千葉）、石倉昭一（埼玉）、水島彰治（神奈川）、宮本義彦（長野）、高田和彦（石川）、堀井啓介（岐阜）、安藤武典（愛知）、伊藤克己（滋賀）、遠山誠之介（和歌山）、蓬郷隆治（岡山）、京才昭（広島）、田福正治（徳島）、足達敏則（福岡）、田場典淳（沖縄）、尾形好雄（東京）、北山真（東京）、相良忠麿（神奈川）、谷口浩平（神奈川）、寺内丈行（東京）、永井豊（東京）、堀井昌子（神奈川）

#### ◎第8号議案、提案通り承認。

#### (9)第9号議案 顧問の推薦について

尾形事務局長より通常総会で選任される以下の顧問候補者の推薦が提案された。

田中文男（埼玉）、粟飯原一成（京都）、本木總子（東京）

#### ◎第9号議案、提案通り承認。

#### (10)第10号議案 国民体育大会山岳競技規則の一部改正について

高山常務理事から資料に基づきクライミング競技ルート・セッター規程、クライミング競技ルート・セッターに関する内規、クライミング競技審判員規程、クライミング競技審判員規程に関する内規、国民体育大会山岳競技開催基準要項細則、国民体育大会山岳競技全種目についての共通規則、国民体育大会山岳競技競技運営員規程の一部改正について提案。

#### ◎第10号議案、提案通り承認。

#### (11)第11号議案 長野県山岳協会からの長野県山岳連盟に関するお願いと要請について

先ず、標記議案を緊急議案として取り上げる事が承認された後、長野県山岳協会（以下「長山協」）の宮本義彦会長から議案の説明が行われた。

「長野県山岳連盟」なる組織については、これまでも再三にわたり長山協とは関係のない団体なので、日山協や各岳連及び各役員には毅然とし、関わりを持たないよう、お願いしてきたところである。昨日、東京都山岳連盟（以下「都岳連」）から資料のような手紙が送られてきた。これを見ると都岳連が長野県山岳連盟の加盟を認めて指導員等の資格申請等を行う、となっている。このような組織活動の根幹を崩すようなことは許されるはずがない。日山協としては、このような都岳連の行いは、認められない、と云う事を決議していただきたい。

その後、本木副会長から都岳連側の経緯説明と永井常務理事から補足説明があり、質疑を受けた。

清野：この議題については、意見だけを言えば良いのか、それとも長野県山岳連盟の名称を使わせない議決を諮るのか。

内藤：長山協からの要請の取扱をどうするかを諮りたい。

安藤：これは長野県の話なので、当事者で良く話し合うべきではないか。名称については登録商標のようなものが無い限り、紛らわしいだけで使用するなど云えるかどうか分からない。都岳連の加盟については、都岳連と長山協で解決する問題で、日山協が関わる問題では無いのではないか。

仙石：県名を冠にした名称は、その県を代表する組織名称なので、長野県山岳連盟にはこの名称を使わせないことにすべきではないか。

山並：自分のところで結論がでないから日山協にもってこられたと思うので、慎重に考えて何らかの方向性を出してやる必要がある。日山協常務理事の自宅を事務所にして加盟条件を満たすなど、余りにも馬鹿げている。大阪府岳連では認めたくない。

西内：長山協と長野県山岳連盟の双方の言い分が食い違っているの、第三者はどちらが正しいのか、

判断できない。長野県山岳連盟がとった行為が日山協の定款や倫理規範等に違反するのかどうかを調査委員会等で調査し、抵触するようであれば、処分を課すことができるが、事実関係が分からなければ、日山協としては動けないのではないかと。茨城にもNPO法人の山岳会組織ができ、岳連と同じような活動をしている。茨城岳連としては、岳連が県民のニーズに応えていないためにこう云う組織が出来たと捉えている。これからこの手の問題は起こりえるので、調査委員会等を設けて事実関係を調査して対応してはどうか。

野田：日山協に会費を納めていない団体が県を冠にした名称を使うのはおかしい。一番良いのは無視すること。分派行動があると組織はガタガタになるが、我々は日山協の組織として活動していることを分からせてあげればよい。

亀尾：県名を冠とした協会と連盟の名称は、紛らわしいどころか、言語道断で、これは挑戦だ。日山協が調停に入るべきだ。都岳連も今回の加盟は、一旦保留にすべきである。

議長：この議題については、次の執行部がお預かりして解決策の対応を図ることで承認を諮りたい。承認。

## 9 報 告

①平成 22 年度共済会事業報告及び決算報告について

▷尾形事務局長より資料に基づいて報告。

②第 50 回全日本登山体育大会について

▷詳細説明は、通常総会で報告と説明。

③東日本大地震復興支援及びクライミングコンペ開催について

▷山並理事より資料に基づいて提言。

④指導委員会からのお願い

▷永井常務理事からスポーツクライミングの検定基準及び指導委員総会について報告。

## 10 閉 会

### 平成23年度通常総会報告

1 日 時：平成 23 年 5 月 15 日（日）  
13 時 45 分～16 時

2 場 所：岸記念体育会館・101～103 会議室  
東京都渋谷区神南 1-1-1

#### 3 会議の成立状況（定款第 26 条）

定数 57 名（定足数 38 名）、出席者 48 名、委任 7 名、欠席 2 名、計 57 名

4 出席者：田中文男会長、内藤順造副会長兼専務理事、粟飯原一成副会長、神崎忠男副会長、本木總子副会長

理事：小野倫夫（北海道）、清野孝（山形）、仙石富英（栃木）、西内博（茨城）、佐藤光由（群馬）、高山雅夫（千葉）、安藤武典（愛知）、堀井啓介

（岐阜）、山並久次（大阪）、遠山誠之介（和歌山）、亀尾崇（鳥取）、天津邦之（島根）、木村康男（香川）、工藤文昭（熊本）、野田孝（鹿児島）、青木茂（特別）、尾形好雄（特別）、相良忠麿（特別）、永井豊（特別）、長谷川茂（特別）、遠藤家之進正和（新潟）  
正会員：服部一雄（青森）、高橋時夫（岩手）、濱田久晴（宮城）、尾形一幸（福島）、石倉昭一（埼玉）、水島彰治（神奈川）、阿部信一（新潟）、宮本義彦（長野）、松本睦男（富山）、高田和彦（石川）、滝田博之（静岡）、亀井正明（三重）、伊藤克己（滋賀）、林辰夫（京都）、中西研一（兵庫）、吉村忠明（奈良）、蓬郷隆治（岡山）京才昭（広島）、小林弘之（山口）、峯本典寛（愛媛）、市村藤一（高知）、足達敏則（福岡）、多田修（佐賀）、溝上春見（長崎）、後藤利雄（大分）

（委任者）佐々木義宗（秋田）、牧野治生（福井）、田福正治（徳島）、冨賀進司（宮崎）、田場典淳（沖縄）、北山真（特別）、堀井昌子（特別）

（欠席者）小島亮治、寺内丈行各理事  
（同席者）

顧問：齋藤一男、坂口三郎、山本久子、国澤鎮雄、城隆嗣

監事：福田 昇、岡本忠良

副会長候補者：國松嘉伸、八木原啓明

## 5 田中会長挨拶

5 期 10 年の長い間、会長職を務めさせて頂き、改めて感謝申し上げます。昨年は創立 50 周年記念事業をさせて頂き、祝賀会には皇太子殿下の行啓を賜ることができました。本日の総会で退任するが、引き続き新体制へのご支援・ご協力をお願いしたい。平成 22 年度も皆様の協力により本会の事業を執行する事ができました。本日も、新公益法人化に向けての定款変更、競技全般の普及・指導、人事案件など、多くの議案が用意されている。限られた時間の中ではあるが、十分に審議をして頂きたい、と挨拶。

会議に先立ち、先の東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りして黙祷を捧げた。

## 6 議事役員の選出

定款第 25 条の規定により田中会長を議長に選出

## 7 議事録署名人の選出

定款第 30 条の規定により宮本義彦（長野）及び相良忠麿（特別）を指名

## 8 議 事

### (1)第 1 号議案 平成 22 年度事業報告について

尾形事務局長から資料を事前配布しているので、詳細説明は割愛し、各担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたいと報告。

◎第 1 号議案、提案通り承認。

### (2)第 2 号議案 平成 22 年度収支決算報告について

相良常務理事より議案書に基づき、平成 22 年度の収支決算及び一般会計、特別会計の明細説明が報

告された。その後、福田監事より監査報告を受け、質疑を受けた。

◎第2号議案、提案通り承認。

(3)第3号議案 平成23年度収支予算に係る付帯議決について

尾形事務局長から平成23年度上期の予算執行をみて予算に変更が生じた場合、補正予算を組んで対処することの承認と補正予算は常務理事会に一任することの承認を求める提案がなされた。

◎第3号議案、提案通り承認。

(4)第4議案 公益社団法人化に向けた定款及び定款施行細則の変更案について

内藤専務理事から公益法人化に向けた定款、定款施行細則、加盟団体規程等の変更案について説明され、議案書に基づいた方向性で準備作業を進めていくことが承認された。

(以下の質疑応答があった。)

伊藤：会費の件について、定款施行細則第2条第1項で個人加入者のことが規定されているが、加盟団体規定第10条第2項の会費の規定から、個人会員を集めて1団体として登録すれば、岳連は日山協に1加入団体分の支払いで済む。岳連は個人会員から会費をとっても日山協には会費を払わずに済むことになるので、この辺のところは明確にすべきだ。

尾形：加盟団体規程第10条の会費は、現状のままです。手をつけていない。これから実態を把握しながら実情にあった会費の算出基準を検討していきたい。

多田：佐賀県の加盟団体数は、高体連を入れても6団体。それぞれの加盟団体は高齢化が進み、活動は停滞気味。クライミングをやるのは1団体のみ。年間予算100万円の内、会費収入は17万円。日山協の会費負担は、かなり大きくこのままでは岳連が消滅してしまう。是非、減免措置など会費の救済策を考えて貰いたい。

内藤：その辺の事情は、よく理解している。何とかまい形で会費の定義が出来るよう検討していきたい。共済会の共済推進事業の交付金を活用するなどして、当座は凌いでいただきたい。加盟団体数の少ない岳連と多い岳連とでは格差が大きい。これを一律で割り当てるのは、公平であって公平でない。日山協の会費収入は1500万円ほどで管理費にも満たない現状である。せめて管理費位は会費で賄いたい。共済会の委託事業費頼みになっている現状を脱却して安定した財政基盤をどう作るかは、大きな課題である。新公益法人化に向けてもこれは避けて通れない問題なので、積極的に議論をしていきたい。

高橋：定款第5条の正会員②は、具体的にどういう団体を想定すれば良いのか。各岳連が公益目的

事業をやっていく中で、具体的に事業面の対応をどうすればよいのか。地方の各岳連は、組織の維持に大変な局面を向えている。こういう時こそ日山協とのパイプを太くし、連携が必要なので、「理事長会議等を開くことができる」ではなく、はっきりと年1回開催すると明確にしてほしい。

尾形：正会員②については、日山協が日本の登山及び山岳スポーツを統轄する団体として公益社団法人を目指すにあたり、将来的に本会と同じような事業団体も東ねていけるように、47都道府県岳連プラスもう一つの枠として48番目の受け皿を設けたい考えである。公益目的事業については、新規事業を模索するのではなく、これまでやってきた事業をどうすれば公益目的事業として認定されるのか、募集、運営、派遣等の方法を検討し、その上で具体的な対応を提示したい。評議員会を定款に盛り込むのが良いのか、理事長会議として加盟団体規程に規定した方が良いのか、このあたりは良く検討して明確にしていきたい。

溝上：定款施行細則第2条第1項の加盟団体の定義では、正会員①も②も同列となっているが、正会員②からも正会員及び理事を推薦することができるのか。

尾形：将来的に正会員②の団体の加入が認められた場合は、その団体の代表者も正会員や理事の候補者になれる。

(5)第5号議案 会長・副会長の選任について

定款第11条第1項の規定により、以下の会長及び副会長の承認を求める。

会長：神崎忠男（東京・新任）

副会長：内藤順造（山梨・再任）、國松嘉仲（滋賀・新任）、八木原罔明（群馬・新任）、松元邦夫（東京・新任）

◎第5号議案、提案通り承認

※新三役に承認された神崎、内藤、國松、八木原各氏から就任の挨拶があった。

(6)第6号議案 監事の選任について

定款第11条第3項の規定により、以下の監事の承認を求める。

福田昇（東京・再任）、岡本忠良（岡山・再任）

◎第6号議案、提案通り承認

(7)第7号議案 特別会員の承認について

定款第5条第1項第2号の規定により、以下の特別会員の承認を求める。

神崎忠男（東京）、國松嘉仲（滋賀）、八木原罔明（群馬）、尾形好雄（東京）、相良忠麿（神奈川）、永井豊（東京）、堀井昌子（神奈川）、谷口浩平（神奈川）、寺内丈行（東京）、北山真（東京）

◎第7号議案、提案通り承認。

(8)第8号議案 理事の選任について

定款第5条第1項第2号の規定により、以下の理

事の選任を求める。

小野倫夫（北海道）、服部一雄（青森）、尾形一幸（福島）、西内博（茨城）、仙石富英（栃木）、佐藤光由（群馬）、高山雅夫（千葉）、石倉昭一（埼玉）、水島彰治（神奈川）、宮本義彦（長野）、高田和彦（石川）、堀井啓介（岐阜）、安藤武典（愛知）、伊藤克己（滋賀）、遠山誠之介（和歌山）、蓬郷隆治（岡山）、京才昭（広島）、田福正治（徳島）、足達敏則（福岡）、田場典淳（沖縄）、尾形好雄（東京）、北山真（東京）、相良忠麿（神奈川）、谷口浩平（神奈川）、寺内丈行（東京）、永井豊（東京）、堀井昌子（神奈川）

◎第8号議案、提案通り承認。

(9)第9号議案 顧問の推挙について

定款第17条第3項の規定により、以下の顧問の推挙を求める。

田中文男（埼玉）、粟飯原一成（京都）、本木總子（東京）

◎第9号議案、提案通り承認。

(10)第10号議案 長野県山岳協会からの長野県山岳連盟に関するお願いと要請について

先ず、標記議案を緊急議案として取り上げる事が承認された後、長野県山岳協会（以下「長山協」）の宮本義彦会長から議案の説明が行われた。

宮本：午前中の決算理事会では、経緯が分からない。資格更新はどうにかしてやらなければならない。当事者の話し合いが大事。日山協は調停すべき。都岳連は加盟を保留すべき。日山協の新体制でうまい解決策を考えるべき。との意見を頂いた。これらを踏まえた上で、長野県山岳連盟が活動拠点のない東京都山岳連盟（以下「都岳連」）に加盟することは、承服できない。このような形で日山協と係わりを持つことを拒否して貰いたい。

神崎：日本山岳会が60年前に何故、日山協傘下の都岳連に加盟したか、それは登山界の秩序を守るためだ。秩序を守ることは重要だ。各岳連に長山協と同じような紛らわしい名称の団体ができたら、秩序を守れるように対応できるのか。若し、出来ないのであれば日山協として前向きに検討すべきだ。

粟飯原：長山協は日山協の大事な一員なので、皆で支えていかなければならない。紛らわしい名称に対しては不快感を持つ。日山協として都岳連に対して調停に入っていくべきだ。

本木：日山協の新会長に仲を取り持っていて当事者が良い関係を構築できるような何らかのテーブルについていただけたらどうか。都岳連も必要なら同席させて、うまく調整して貰いたい。

後藤：長野県山岳連盟に対して日山協から名前の改変と長山協の一員として成り立つようお願いして貰いたい。

伊藤：一番こじれさせたのは、都岳連なのだから日山協は都岳連に白紙撤回を求めるべきだ。長野県

山岳連盟に対しては日山協認定の資格更新をしたのであれば長山協に加盟すべきだ。日山協の参与は、日山協を離れた人でも参与なのか。日山協の参与規程で資格等はどうかになっているのか。

尾形：参与規程では、資格、推薦基準は定めているが、退会・除名等については、特に定めがない。

内藤：山梨でも以前に同様の問題があった。その時は加盟団体である岳連会長の意に沿わない、と云う事で、岳連から日山協に参与推薦の取り下げを出して、除名にした経緯がある。長山協からもそのような手続きを取って貰えれば、現行規程でも対処できる。

議長：この議題については、次の執行部がお預かりして一日も早く問題が終結するような方向に対応して貰う事で承認していただきたい。承認。

9 報 告

①平成22年度共済会事業報告及び決算報告について  
▷尾形事務局長より資料に基づいて報告。

②第50回全日本登山体育大会について

▷主管の福岡県山岳連盟・足達会長から資料に基づいて報告。

③国民体育大会山岳競技規則の一部改訂について

▷高山常務理事から資料に基づきクライミング競技ルート・セッター規程、クライミング競技ルート・セッターに関する内規、クライミング競技審判員規程、クライミング競技審判員規程に関する内規、国民体育大会山岳競技開催基準要項細則、国民体育大会山岳競技全種目についての共通規則、国民体育大会山岳競技競技運営規程の一部改正について報告。

④東日本大地震復興支援及びクライミングコンペ開催について

▷山並理事より資料に基づいて提言があった。

⑤宮城、岩手、福島各岳連の会長から震災見舞いの御礼挨拶があった

▷本木副会長より東日本応援フォーラム「東北の自然と山を語る」の案内があった

⑥「山の切手」発行について

▷田中会長から経過報告と協力の依頼があった

⑦事務局体制の強化について

▷内藤副会長より平成23年4月からの事務局体制について説明。

10 閉 会

## 平成23年度第1回理事会報告

1 日 時：平成23年5月15日（日）  
16時10分～16時40分

2 場 所：岸記念体育会館・101～103会議室  
東京都渋谷区神南1-1-1

3 会議の成立状況（定款第26条）

定数32名（定足数22名）、出席者24名、欠席8名、

計 32 名

#### 4 出席者

神崎忠男会長（特別）、内藤順造副会長（山梨）、國松嘉伸副会長（特別）、八木原罔明副会長（特別）、小野倫夫（北海道）、服部一雄（青森）、尾形一幸（福島）、仙石富英（栃木）、西内博（茨城）、佐藤光由（群馬）、石倉昭一（埼玉）、高山雅夫（千葉）、水島彰治（神奈川）、宮本義彦（長野）、高田和彦（石川）、安藤武典（愛知）、堀井啓介（岐阜）、伊藤克己（滋賀）、京才昭（広島）、蓬郷隆治（岡山）、足達敏則（福岡）、尾形好雄（特別）、相良忠麿（特別）、谷口浩平（特別）各理事 以上 24 名（欠席者）松元邦夫（東京）、永井豊（特別）、寺内丈行（特別）、堀井昌子（特別）、北山真（特別）、遠山誠之介（和歌山）、田福正治（徳島）、田場典淳（沖縄）以上 8 名（同席者）監事：福田昇、岡本忠良

#### 5 神崎会長挨拶

本日は長時間ご苦勞様です。新体制でのスタートですが、新鮮な中に良い知恵が出てくることを期待している。恐る恐る会長を引き受けたが、副会長の陣容、強化された事務局体制から心配しないでほしいと明言したい。これから新たな 50 年に向けて日山協の組織作りをしていきたいので、ご協力をお願いしたい、と挨拶。

#### 6 議事役員の選出

定款第 25 条の規定により神崎会長を議長に選出

#### 7 議事録署名人の選出

定款第 30 条の規定により高山雅夫（千葉）理事及び京才昭（広島）理事を指名

#### 8 議 事

##### (1)第 1 号議案 平成 23 年度運営方針について

内藤副会長より平成 23 年度は、公益法人化の加速、登山界のニーズに対応できる体制作り、登山部・競技部の充実、事業の見直しと適正な支出を図り、恒久的な財源作り、などがあるので理事各位に一層の協力を願いたい、と要請。

尾形事務局長より平成 23 年度の理事会日程（11 月 13 日、3 月 11 日）、評議員会日程（2 月 19 日）について説明。この他の業務執行等については、常務理事会に一任させていただきたい旨提案される。

◎提案通り承認。

##### (2)第 2 号議案 専務理事及び常務理事の互選について

定款第 11 条第 2 項により、以下の専務理事と常務理事の互選について提案された。

専務理事：尾形好雄

常務理事：西内博、仙石富英、佐藤光由、高山雅夫、石倉昭一、水島彰治、北山真、相良忠麿、谷口浩平、寺内丈行、永井豊、堀井昌子

◎提案通り承認

尚、常務理事の業務分担については、6 月常務理事会までに決めることで、承認。

##### (3)長野県山岳協会（以下「長山協」）からの長野県山岳連盟に関するお願いと要請について

議長：総会に引き続き、この議案について対応を協議してほしい。

宮本：東京都山岳連盟（以下「都岳連」）が動いてしまうと話し合いも何もなくなってしまいますので、都岳連にストップをかけて貰い、その上で日山協の新執行部に仲介して貰いたい。

岡本：この問題は日山協にも責任がある。これまでも長山協から再三にわたって公の場でこの問題は訴えられていたのだから知らなかった筈がない。長野県山岳連盟の都岳連加盟に際し、日山協の常務理事が絡んでいるとは、どういう事か。常務理事には組織の役員として秩序を守って貰いたい。

議長：長山協だけの問題に関わらず、紛らわしい組織名称については、日山協の秩序を守るためにも対策を考えていきたい。新執行部としては、長野県山岳連盟と関りのある坂口顧問の力も借りて、双方が納得できるような調停を図っていきたい。

國松：日山協傘下の都道府県山岳連盟・協会は、唯一無二であり、1 県に紛らわしい名称の連盟・協会が複数存在すること自体大きな問題である。何故こういう問題が出てきた時にもっと早く対処できなかったのか。何れにせよ早急に対応しなければならぬ。

八木原：この問題は以前から知っていて不愉快な思いをしていた。都岳連には白紙撤回して貰い、早めの解決を望みたい。

議長：この件に関しては、新執行部で検討し、前向きに取り組んでいくことで承認していただきたい。承認。

##### (4)その他

西内：登山部専門委員会の守備範囲が、登山界のニーズにあっているのか、見直していくために遭対委と指導委が協議しながら対応を図っていくので、支援していただきたい。登山部会の役割分担の調整を副会長にお願いしたい。

宮本：長山協創立 50 周年記念事業へのご協力をお願いしたい。

#### 9 閉 会

神崎会長より、日本の登山界のリーダーシップを取るのには、日山協。日本山岳会は 105 年の歴史があると言ってもあくまでもクラブの一つである。将来に向かって登山界を築いていくのは日山協なので、自信と誇りをもって日本の登山界を牽引して貰いたい。社会に信頼され、期待される日山協を目指していくので、協力をお願いした、と挨拶され、議事を終了した。

## 第31回 Mountain World

### 「風の記憶」 Memory of the wind

池田常道

いまから45年前の1966（昭和41年）といえば、どんなことがあったのだろうか。

前年秋から回復に転じた気はしだいに上昇、以後50カ月以上つづく「いざなぎ景気」となり、経済大国として日本の地位が確立された。テレビはカラー時代に入り、自動車ブームも始まってカラーテレビ、カー、クーラーの3Cがもてはやされた。反面、全日空ボーイング727機（2月）の133人、カナダ航空DC8機の64人、BOACボーイング707機の124人（いずれも3月）、全日空YS11機の50人（11月）と航空事故で多数の犠牲者があいついだ。6月にはビートルズが来日して異常な熱狂を巻き起こし、9月にはジャン＝ポール・サルトルとシモーヌ・ド＝ボーヴォワールが来て、対照的に知的で静かな熱狂を呼んだ。

一方登山の面では、3月に剣岳登山届出条例が施行され、谷川岳でも遭難防止条例が生まれた（施行は翌年から）。続発する遭難への対処として、今日までつづく行政の規制が導入された年である。海外登山の面でもネパール・ヒマラヤが門戸を閉ざし、ヒマラヤへ向けられていた情熱はヒンズー・クシュ、アンデス、アラスカへと拡散することを余儀なくされた。

\*

そんな年の5月から8月、アラスカからカナダにかけて存分に青春を謳歌した登山隊があった。錦織英夫隊長（25）以下、磯弥須彦（24）、小川武（23）、久保田保雄（22）、佐村雄三（23、故人）、村山和哉（23）の6人、そして最終的に参加できなかったものの、準備段階で計画の推進力となった石川正弘（23）の面々である。学習院、慶応、芝浦工業、明治薬科、専修の各大学若手OB（あるいは卒業を遅らせた現役）で構成されたこのチームは、日本山岳会学生会部隊として派遣された。

アラスカでは、当時まだ2登までしかなかったハンター（4442m）とフォラカー（フォレイカー、5304m）をめざし、帰途はカヒルトナ氷河をツンドラ地帯まで徒歩で下降、さらにカナディアン・

ロッキーで最高峰ロブソン（3954m）などに登るといふ野心的な計画だった。この遠征の記録は「山岳」や「日本山岳会学生会部年報」に発表されているが、登山史家たちは70年代に隆盛を迎えたヒマラヤ登山に興味偏り、等閑視しがちだった。戦後一大ブームを呼んだマナスル以来、日本人の海外登山史は、ともすればヒマラヤやカラコルムの大遠征に重点が置かれ、この種の小規模遠征まで目が届いていなかったうらみがある。

そんななかで、当時のメンバーによってこの4月に刊行された「風の記憶」（60頁）は、45年前のヴィヴィッドな感動を伝えてくれるものとして貴重な出版といってよい。筆者がこの本を知ったのは、メンバーの一人、小川武さんから送っていただいたからだ。小川さんによれば、筆者の訳したフォラカー南東壁初登攀の記録（Rock & Snow 52号）を読んで、コリン・ヘイリーたちが下降に使ったルートが、自分たちが45年前に初登攀したラインだったことを知ったからだという。

これにかぎらず、日本チームが以前登ったルートが再登（あるいは下降）された例はいくつもある。アラスカ／ユーコンのヴァンクーヴァー 2009年は大阪府岳連隊が1968年に登ったルートだったし、南米のワガルンチョでも京大隊が登っていたことが判明したことがあった。海外メディアから問い合わせがあるたびに、「じつは、すでに日本隊が登っているんだヨ」とメールで返信するのは、筆者のひそやかな快感になっている。

錦織隊長が記すように「もう一度あのときの感動を手元に手繰り寄せ、私たちの心の回帰するところ、心の安らうところを確かめておきたい」という趣旨で出版された本書は、現代のクライマーにとっても、充実した遠征のあり方を示唆する格好の手がかりとなることだろう。残部僅少。お問い合わせは、〒357-0044飯能市川寺57-20 錦織英夫方（電話042-974-1214）まで。



ハンター西稜 2800m 地点の C2 にて。笑顔あふれるメンバー全員の記念写真。同署より

# 国際山岳連盟 (UIAA) における登山委員会の活動内容紹介 ～ベルン会議に出席して～

遭難対策委員会委員 青山千彰

早いもので、2009年5月UIAA総会において、登山委員会 (Mountaineering Commission) の投票権を持つ正規委員 (Voting member) に選ばれて以来、2年の歳月が流れた。年2回の会議出席が課せられているため、今回のスイス、ベルン会議 (UIAAの本部で実施) を入れて、既に5カ国で開催された委員会に出席したことになる。

国際山岳連盟 (UIAA) は日本山岳協会の上部団体に位置づけられる組織であるが、日山協の関係者でさえ「UIAAの中で、どのような活動が行われているのか、見えにくい」との声が良く聞かれる。そこで、今回は、『登山委員会の活動』について、ある程度右と左が分かってきたこともあり、紹介していきたい。

## 1. 登山委員会の組織構造

当委員会の構成委員は大きく二つに分かれる。前述の投票権を持つ正規の委員と通信委員 (Corresponding member) である。正規委員の選出には、委員長に決定権はなく、UIAA総会で決定される。一方、通信委員は、遠隔地で会議出席が難しいケースや特殊な領域の専門家のケースが該当し、委員長の裁量で選ばれる。出席しない場合は、委員会から議事録など活動資料が送られる。登山委員会では18名の委員と5名の通信委員から構成されている。

登山委員会は、UIAAの8つの専門委員会の中で、登山技術および登山倫理と登山規則を扱うメインエンジニア的な役割を担っている。この活動を支える形で、2つの専門ワーキンググループ (①登山教育の標準化WGと②法律専門WG；以下ワーキンググループをWGと略称) を抱えている。ただし、一般に理解するワーキンググループとは異なり、専門部会と言ったものであろうか、独立性が強く、登山委員会の委員と共にWG独自の委員と通信委員を持っている。特に、法律専門WGには弁護士、検事などが専門家として参加するため、その傾向が強い。

## 2. 定期委員会活動から見た作業内容の紹介

年2回開かれる委員会は、3日間朝から晩までコーヒブレイクとランチを挟みながらハードな作業と議論が続く。そこで、今回のベルン会議での主な委員会活動の一端を紹介すれば、ある程度活動内容が理解して頂けるのではないだろうかと考えている。なお、法的問題や審議事項等については、守秘義務があるため、制限された内容となる。

第1日目、まず、前回議事録確認後、委員の出欠確認と人事から始まる。次に、委員長と、担当理事、さらに、他の委員会兼任委員から、UIAAが現在抱えている主な問題、展望、各委員会での活動状況が報告される。

今回詳しく報告された、医療委員会 Medical Commission では、他のレスキュー団体による認証上の問題点、ドーピング問題、低酸素症、などが話し合われていることが紹介された。一方、安全委員会 Safety Commission では、設備標準およびリスクマネジメントなどを、クライミング界に普及させるため、一連の出版物 (安全基準の教育ビデオ、(※1)SAC 安全クライミングの翻訳、(※2)BMCの保存設備など) を作成してきた。また、ホームページ上に、後述する(※3)リコール用品のデータベースやブラックリスト、問題用具への警告などをあげている。これらの情報は登山者の方々には非常に役立つと思われる。他にも、青少年委員会、アクセス委員会、自然保護委員会、探検登山委員会などの活動について、簡単な説明がなされた。

事務局からは、登山委員会と他の委員会との情報交換や共同作業などをより効率化するため、グーグルドキュメントを基盤とするドキュメントファイルやメールの管理システムの採用などが提案された。登山委員会と他の委員会間の交流は兼任委員を通じて活発に行われている。日山協においても、管理レベルではなく委員会レベルでの交流、共同作業などの活動は大いに参考になると思われる。

## 3. 教育と法律、二つのWG活動の特徴

第2日目においては、「登山教育の標準化」と「法律専門」、二つのWGに別れた会議がもたれる。なお、後者は主に法律専門家の集まりのため年1回のペースで開かれる。二つのWGが開催されると、私は事故専門ということで後者に加わる。今回は法律WGが開催され、そちらに優先的に参加したが、



UIAA本部ベルンにおける登山委員会参加者

前半は登山教育に加わるようになった。

登山教育の標準化 WG は去年日山協の 50 周年で招待した Steve Long 氏が代表を務める。本委員会の中心的な役割を担っている。既に、UIAA 方式のボランティア登山教育の標準化活動は、10 年以上の試行段階が終わり、世界規模での第 2 期普及段階に至っている。2 回前のバルセロナ会議より、「どのような人々に提供するのか」、「どうすれば多くの人々によりよく理解されるのか」、「その経費はどうあるべきか」などが話しあわれてきた。今回は、UIAA の収入源として位置づけ、標準ラベル発行問題やウェブサイトの利用、さらに、提供される教師派遣、訓練、セミナー、認可、妥当性の再確認などについて話し合われた。UIAA の登山教育承認国(団体)もインド、ロシアと増加しづけており、やがて、アジアでの普及拡大も時間の問題と考えている。

会議に耳を傾けながら、「今後の日本の(日山協の)登山教育はどこに向かおうとしているのだろう」といつも考え込んでしまう。「結局、このまま日本流マイウエイ教育路線を強行していくのか?」「登山教育の標準化といっても、日本流教育内容の一部(特に資格認定)の変更で受け入れられる」と思うのだが。日本に好印象を持ってくれた Steve 氏には、積極的に参加できない我が国の登山教育事情の複雑な背景について、説明はするものの、割り切れないものを感じている。

一方、法律専門 WG は、今回代表であった Renee Hopster から Xabier S. Ezeizabarrena に交代した。当メンバーが法律専門家から構成されるため、審議内容や法律データベースの詳細については、戦略的な問題として、一般公開は禁じられている。その仕事は、UIAA の法的問題へのサポート(例えばドーピング問題)、欧米で起こる登山関連事故裁判での権利放棄 Waiver 問題へ解釈、異なる裁判権における鑑定書の扱い、登山裁判データベースの構築など多岐にわたる。ただし、特定の国で発生した裁判問題に対して、参考となる情報を提供できるが、対応する組織ではない。データベースには、既に、日本での裁判事例を入力した。他国に比べ、引率系登山事故の裁判事例が多いのが特徴のようである。

#### 4. 登山倫理、事故調査

第 3 日目は、最終日である。倫理、ホスト国(今回はスイスアルパインクラブ SACCAS 活動)の紹介、統一山岳事故調査フォーマットによる調査と事故統計などが話し合われた。

今回、倫理部門については、大きな動きはなく、総会での伝統的クライミング WG の発足について報告があった。従来、UIAA では、倫理を最重要事項として位置づけてきた。2002 年のチロル宣言など、長い討論を経て、2009 年当委員会から提出さ

れた登山倫理宣言(Mountain Ethics Declaration)が総会で承認された。登山倫理は、「国際山岳連盟として、何を指すべきなか、何に基づいた行動原理であるべきか」、その姿勢を示したものである。継続審議されているボルト問題 To bolt or Not to Be など、今後とも、登山委員会にとって最重要審議事項となっていくと考えている。

最後に、「統一山岳事故調査フォーマットによる調査と事故統計」が私に課せられた役割である。UIAA は世界規模での山岳遭難事故の実態を把握できていない問題を抱えてきた。特に、その活動の中心にあるアルプス周辺での事故実態でさえ、正確につかめていない。安全登山を目指した教育活動を行い、リスクマネジメントを打ち出す以上、登山事故統計による実態把握と分析、そして対策の検討が絶対に必要となってくる。

統一事故調査フォーマットとは、事故調査のアンケートを世界規模で統一したフォーマットで実施するものである。既に、10 カ国の事故調査報告書を集め、これらの調査項目から共通項の取り出し作業が終了した。今回は、初めて、統一アンケート調査(案)を提出した。この事案に対する委員からの反応は「調査の趣旨賛成、実施は難色」というところか。実際に、動き出すと大変な仕事が予想されるため、なかなか首を縦に振ってくれない。そのため委員長の Pierre が AON など保険会社に事故調査の協力依頼のためアクセスを開始している。今後、安全委員会や医療委員会とも共同作業になっていくのではないかと考えている。

#### 5. 終わりに

自分の英語能力で登山委員会での仕事は厳しい。しかし、委員として参加することで、今まで見えなかった UIAA の組織、その仕事などが何とか見えるようになり、加えて、人的つながりが増し、膨大な情報が入手できるようになってきた。登山委員会の審議内容を詳細に報告することは難しいが、今後とも、できる限り、その活動状況を伝えていきたいと考えている。

(※ 1) SAC: Swiss Alpine Club

(※ 2) BMC: British Mountaineering Council

(※ 3) UIAA リコール用品のデータベースについては、安全委員会のサイト Recalled equipment & Advice notes [http://www.theuiaa.org/certified\\_equipment.php](http://www.theuiaa.org/certified_equipment.php) から検索することができる。また、同じページにはブラックリストも掲載されている。

# 山岳スキー競技小委員会 2010 - 2011 シーズン報告

## 山岳スキー競技小委員会

2010 - 2011 シーズン最大の出来事は、日本選手権大会の中止である。これは東日本震災の影響と福島原発事故の動向が3月20日時点で不明確であったことによる。

しかし、世界選手権大会には、5名の選手が参加、他に韓国大会などにも参加があった。

国内大会 日本選手権大会は中止となったが、梶池を地元とする平田伸也選手を中心とする選手有志が、それを惜しみ、またレースをすることで日本を元気づけられるのではとの声を上げた。平田選手達は、大会事務局の支援を受けつつ昨年の参加者に声をかけ、大会期日と4月9日にチャリティーレースを実施した。参加者は選手44名 ボランティア役員6名であった。男女個人戦が、大会コースに沿って作られた登り360m下り360m 水平移動距離約4.6kmのコースで争われ、選手権同様の白熱したレースになった。新しい試みとしてリレーも実施され、出場9チームで和気あいあいとした中にも、各チームは真剣そのもののレースとなった。例年大会に協賛してくれている企業から、選手権大会同様の協賛が集まり、賞品として提供され一部はさらにチャリティーオークションされた。その落札金額と参加費の合計より諸経費を差し引き精算したところ345,515円の寄付が集まった。この金額は、日本山岳協会を通じて、全額義援金として寄付された。

平田選手達の自主的な活動でここまで盛り上がったことは非常に喜ばしく、この気持ちを来シーズンにつなげたい。この大会の記事が山と溪谷2011年6月号に掲載された。

海外大会 2011年2月18日から26日までの日程でイタリアのドロミテにある山岳リゾート地クラウトで第5回山岳スキー競技世界選手権大会が開催された。2010年にアンドラで前回大会があったので、本来であれば今大会は2012年開催だが、この周期だとオリンピック年と重なることから、一年ずらすことが決まり2011年実施となった。今大会には、男子3名藤川健（北海道）石橋恭（北海道）平田伸也（長野県）女子2名堀部倫子（千葉県）、間瀬ちがや（東京都）が参加した。日程と費用負担の点からか、前回より3名少ない参加であったのが残念である。リザルトは男子チームレース平田・藤川組27位3:46:23。（1位イタリア組2:30:26）リタイア組もある中での完走31組なので大健闘といえる。女子は間瀬・堀部組は13位（13組完走）



であった。コース閉鎖直前になんとか滑り込み完走した。完走で立派に国別ポイントに貢献した。バーチカルは男子石橋恭62位平田伸也64位藤川健65位（完走67名）。石橋選手初参加にも関わらず良い走りをした。女子は31名完走間瀬ちがや25位堀部倫子28位でした。間瀬選手は昨年の大会より順位を大きく上げ、がんばった。新種目スプリントでは、女子完走33名間瀬ちがや30位堀部倫子31位、男子藤川健49位石橋恭57位で（完走60名）藤川選手大健闘であった。総合国別ランキングは16位（参加21国、前は15位/23カ国中）で一つ落ちた。これは選手数が前回より少なく、チーム戦出場が一チーム減り、またリレーも出場できなかった為である。リレーでは、人数が不足し正式参加出来なかったが、大会本部と連盟に交渉して他の国の選手と組んでオープン参加で走った。笹生が役員として参加できず選手にはレース登録など雑務の負担が大きいのしかかったが良くやってくれた。また選手達は本大会の前に、別の草レースに出るなどしてレース経験を重ね大会に臨むなどモチベーションも高かった。平田、石橋両選手は、今回が初参加であるが世界大会経験者が増えたことは嬉しい。藤川健選手が大会の様子を書いた記事が「山と溪谷」2011年5月号に4ページにわたって掲載された。

津田圭選手ワールドカップ戦参加昨年の国内大会で上位の成績を残した富山の津田圭選手が、単独でワールドカップ戦に参加した。成績はさることながら、国際大会の経験を積みたいというその意気を買いたい。今後ともこうした選手の前向きな取り組みは支援して行きたい。

韓国大会、世界大会とほぼ同じ2月19、20日の日程で恒例の韓国大会が開かれた。日本からは山岳スキー競技小委員会の佐伯尚幸を監督に世界戦に出場しなかった代表選手など7名参加した。男子は三浦裕司選手（北海道）が連覇で優勝3位：伊藤吉昭選手（北海道）4位：平出和也選手（東京都）5位：西川圭吾選手（北海道）8位：山田選手9位：鈴木

啓一郎女子2位：伊藤真由恵選手（北海道）表彰台は日本選手で占める結果となった。韓国連盟は、毎年日本選手の滞在費、参加費を全て負担し歓迎してくれているが、改めて感謝したい。

今シーズンの総括と来季に向けて 今シーズンは選手権大会が開催できずきわめて残念であるが、44名の選手が自主的にレースを実施したことは大きな希望を抱かせる出来事であった。この動きを競技普及につなげたい。山と渓谷誌昨年12月号以来三回にわたって競技を取り上げてくれたことも明るい材料である。来季は、世界選手権は無いが、ワールドカップ戦やクラシックレースなどはあるので上位選手の参加を促したいと考えている。韓国、中

国の大会にも更に多くの選手を送り出したい。韓国はワールドカップ戦を開催したいと意欲的だが、国際連盟 ISMF はコース状況などから難色を示すのではないと思う。日本は、アジアで唯一、山岳スキー競技のフィールドがあり、選手も育っているので今後も合宿や大会参加費補助などを通して選手強化に取り組みたいと考えている。国内では柵池での日本選手権の実施に加え、ぜひ北海道での大会開催を実現したい。また競技体験セミナーなども考えたい。

競技委員会、国際委員会各委員のこれまでの尽力に感謝申し上げるとともに、今後もさらなる協力を仰ぎたい。

（文責：笹生博夫）

## 中島 龍さんを偲ぶ

それは東日本大震災が起こる20日前でした。中島会長ご逝去の報は私ども岳連盟関係者にとっては言葉に尽くし難い大きな衝撃でありました。

兵庫県山岳連盟の大黒柱として10年、苦難の連続した時期を卓越した指導力と実行力で私どもを引っ張っていただきました。常に加盟団体のことを念頭に岳連の役割をどう果たしていくかに腐心され常に一心同体の心構えで連盟の運営を目指されていたのが印象的でした。また日本山岳協会の副会長、近畿地区山岳連盟会長の要職にも就かれ幅広く活躍されていただけに心労の続く毎日だったことは察するに難くはありません。心からご冥福をお祈り申し上げます。

若かりし頃は行政マンとして大変忙しい日々の中、背山の六甲山を鍛錬の場としつつ、1967年の日米合同登山隊のアラスカ遠征に際しては隊員の一人として4402メートルの末踏峰登頂を果たされました。

岳連会長になられてからの大仕事は2006年の「のじぎく兵庫国体」で兵庫を総合優勝に導く原動力となられたことでしょう。山岳競技の準備に心血を注がれ見事に成功に導かれました。クライミング大会当日、ご来臨の天皇、皇后両陛下の後方で満足そうに微笑んでおられた姿が今も私の臉から離れません。

また今や全国的にも知名度の高くなった「六甲山全山縦走」の運営を取り仕切る“六甲全山縦走市民の会”の会長や神戸ブータン友好協会会長等を歴任され山岳スポーツの振興や国際友好交流にも随分と尽力されています。

「和」を大切に誰にでも優しく気配りし、にこにこしながらも集団を纏める不思議な力を持っておられました。偉ぶらず、ユーモアを交えたやわらかい話しぶりは人の心をしっかりと捉え、その親しみや

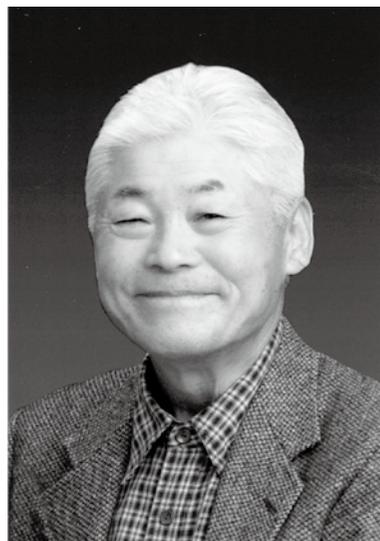
すさからか“中島さん”ではなく“龍さん、龍さん”と誰からも愛される本当に素晴らしい人でありました。また誠実を絵に描いたような面もあり会長としてこなすべき事柄は一言も不満を漏らさず淡々と

実行されていまして、頼まれごとでもよほどのことがない限り幅広く受け入れられ、その約束は必ず履行されていました。

トレードマークのチェックのシャツでの山歩きはもちろん、囲碁やゴルフ等多趣味でしたがその一つ一つがそれなりのレベルでありましたから私どもはいつも脱帽するしかありませんでした。またお酒を愛し独特の洒落は周りのみんなを楽しく明るくさせるに十分でした。

74年の生涯、長かったとは言えませんが、“存分に人生を楽しまれましたね”と声かけしたいと心底思っています。

思い出は私どもの心の中にいつまでも、中島会長の御霊やすかれとお祈り申し上げます。



平成23年6月  
兵庫県山岳連盟 会長 中西研一

# 平成 23 年度ジュニア登山教室 in 立山開催要項

平成 23 年度ジュニア登山教室を下記要領の通り開催いたしますので、ふるってご参加ください。

記

1. 期 日 平成 23 年 8 月 10 日 (木) ~ 13 日 (土)
2. 会 場 〒 930-1407 富山県中新川郡立山町芦峯寺字前谷 1 番地  
「国立立山青少年自然の家」 <http://tateyama.niye.go.jp/>
3. 内 容 立山登山、カルデラ博物館見学、森や野原の恵みを使ったクラフト、クライミング体験、  
弥陀ヶ原自然観察・青少年自然の家散策など
4. 募 集 小学校 4 年生から中学校 3 年生ぐらいまで 30 名 (先着順)  
※兄弟で参加の時はご相談ください
5. 参加費 こども 17,000 円 (保険料、宿泊食事 3 泊 9 食代等)  
※現地までの交通費は各自ご負担下さい。送迎バス (東京発) は往復 8000 円。
6. その他 ①申込：郵送または FAX (03-3481-2395) にて 7 月 10 日迄に日山協事務局必着  
②今回は山と渓谷社の協賛により、東日本大震災の被災者の小学生を 10 名程度招待  
致します。希望する小学生がいましたら事務局 (松隈) までご連絡ください。



平成 23 年度 5 月 (23 年 5 月)  
常務理事会議事録

日 時 平成 23 年 5 月 6 日 (金)  
17:40 ~ 21:00

場 所 岸記念体育会館 103 会議室

出席者 田中会長、内藤副会長、  
粟飯原副会長、神崎副会長、本  
木副会長、仙石、佐藤、堀井、  
尾形、相良、永井、長谷川各常  
務理事

委 任 西内、高山、青木、北山、  
谷口、寺内常務理事  
(18 名中 12 名出席)

## 1. 専門委員会動静

4 月常務理事会以降  
(4 月 15 日 ~ 5 月 5 日)

### 【報告】

(1) 自然保護委員会

4 月 19 日 (火) 出席者 15 名

ア 自然保護委員会の新体制につ  
いて

- ・平成 23 年度の理事改選後の  
体制について
- ・平成 23 年度重点事業計画に  
ついて

イ 自然保護委員総会

(10/15 ~ 16、鳥取)

主管岳連からの照会事項について

ウ 山岳トイレの取組みについて

予稿増刷分の配布について

「山はみんなの宝」の新たな展  
開について

エ トレラン・アンケートの実施  
時期について

オ 山岳団体自然環境連絡会につ  
いて

・平成 23 年度第 1 回連絡会議  
(4/4、労山事務局会議室)

・野生鳥獣目撃レポート・プロ  
ジェクトについて

カ 常任委員研修会について

キ その他、連絡事項ほか

(2) 強化委員会

4 月 19 日 (火) 出席者 5 名

ア 2011 年の日本代表選手の派  
遣について (別紙参照)

- ・S 代表
- ・A 代表
- ・ボルダリング B 代表

・リード B 代表

・世界選手権大会 (イタリア・  
アルコ) 派遣選手

・障害者大会 (イタリア・アル  
コ) 派遣選手

・アジアユース大会派遣選手・  
世界ユース大会派遣選手

(3) 遭難対策委員会

4 月 20 日 (水) 出席者 10 名

ア 平成 23 年度講習会について

・夏山レスキュー講習会 (9  
/23 ~ 25、国立登山研修所)

・冬山レスキュー講習会 (1  
/27 ~ 29、谷川岳・土合山  
の家)

イ 平成 23 年度遭難対策委員会総会、  
研修会について (6/25 ~ 26、  
奈良県明日香村)

・26 日 (土)：グループ研究討  
議「安全登山の教育について」

・27 日 (日)：活動計画、強度  
試験報告、UIAA 報告、第 8  
回事故調査報告ほか

ウ 全国山岳遭難対策協議会及び  
山岳遭難シンポジウムについて

・7/7 (木)、国立オリピック  
記念青少年センター

・全山遭難終了後に同会場で労山

JMA

守ります。美しい日本の山。

# あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

## 救助費用はタダではありません。

### ■平成21年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成22年6月8日)

発生件数 **1,676** 件

遭難者数 **2,085** 人

死者・行方不明者 **317** 人



詳しくは → [www.jma-sangaku.org](http://www.jma-sangaku.org)

お問い合わせは

**日本山岳協会 山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

との共催でシンポジウムを開催（～20時を予定）

- ・全山遭シンポジウムの課題（案）について

#### エ 強度試験について

10月以降の実施で検討

#### オ 常任委員総会について

5/14（土）、上尾市スポーツ研修センター

#### カ その他

指導委総会への出席について（西内、町田）

#### (4)競技委員会

4月21日（木）出席者13名

#### ア 4月常務理事会報告

- ・ワールドカップ印西大会の開催中止について
- ・4/27の印西市長表敬の件

#### イ 第7回山岳スキー競技日本選手権大会の中止報告

#### ウ WC印西大会中止による今後の対応について

行政としては、チャリティー大会を検討中

#### エ トレラン小委員会の進捗状況について

#### オ 国体後催島の準備状況について

山口：本国体は実施

## 2. その他の重要事項

（4月15日～5月5日）

### 【報告】

- (1)ミズノスポーツメントール賞、ミズノスポーツライター賞表彰式 4月18日（月）  
於：グランドプリンスホテル新高輪 尾形常務理事
- (2)神奈川県第58回定例代議員会 4月19日（火）  
於：かながわ県民活動サポートセンター 田中会長
- (3)勝部憲二参与（滋賀）逝去

4月20日（水）

- (4)競技委員総会 4月24日（日）  
於：岸記念体育会館（504・505号） 田中会長、寺内、高山、北山、永井常務理事

- (5)朝山迪彦参与（大分）逝去 4月25日（月）

- (6)会計監査 4月25日（月）～26日（火）  
於：岸記念体育会館（504号） 田中会長、福田、岡本監事、相良、尾形常務理事、瀬田

- (7)「山の日」制定協議会 4月26日（火）  
於：岸記念体育会館（504号） 本木副会長、尾形常務理事

- (8)財団法人財団平成23年度第1回理事会 4月26日（火）  
於：法曹会館 本木副会長

- (9)印西市々長表敬 4月27日（水）  
於：印西市役所 田中会長、高山常務理事

### 3. 議事

- (1)平成23年度4月常務理事会議事録の承認について（承認）
- (2)平成22年度決算理事会の議案について（一部訂正で承認）
- (3)平成23年度通常総会の議案について（一部訂正で承認）
- (4)公益社団法人化に向けた定款（案）について（通常総会への提案内容について承認）
- (5)国体山岳競技規則の一部改訂について（提案通り承認）
- (6)平成23年度通常総会の人事案件について（提案通り承認）
- (7)顧問候補者の推薦について（提案通り承認）
- (8)東日本大震災復興支援について（当該岳連（協会）の実態及び要望を把握して支援内容を協議することで、承認）
- (9)平成23年度生涯スポーツ功勞

### 【東日本大震災義援募金協力者ご芳名】

（6月7日現在、敬称略）

124,000円：兵庫県山岳連盟、10万円：藤田昭子、7万：三重県山岳連盟、5万円：ツラネージュサングクカイ、39,600円：熊本県山岳連盟、39,000円：新潟峯友会、35,000円：春日部市トウブトウコ、3万円：富山県山岳連盟、島原山岳会、27,500円：新潟県山岳協会有志一同、高知県山岳連盟、2万円：名古屋山岳会、新潟県山岳協会、ヨシカワテイコ、11,000円：彩・岳悠会、1万円：本木總子、柏崎山岳会、浅野清彦、8,400円：山岳同人チーム84、3千円：長霞道夫（総額：3,066,270円）

者候補の推薦について（該当者無しで承認）

- (10)2011年日本代表選手の派遣について（提案通り承認、派遣費用は第1次補正予算で対応することで承認）

#### (11)報告事項

ア 平成22年度収支決算報告について

#### イ 事務局体制について

- ・5/9より朝田美佐子を事務局員（嘱託）として採用。

### 4. 役員等の派遣について

- (1)平成22年度決算理事会・23年度通常総会・第1回理事会 5月15日（日）  
於：岸記念体育館 田中会長他
- (2)文部科学省の実地検査 5月16日（月）  
於：事務局 尾形常務理事
- (3)日体協加盟団体事務局長会議 5月17日（火）  
於：岸記念体育会館講堂 尾形常務理事
- (4)社団法人山岳ガイド協会通常総会・懇親会 5月17日（火）  
於：弘済会館「梅」 神崎副会長、

## 寄贈図書

### ●寄贈本●

『山嶺—平成22年の山岳遭難防止活動—』（山岳遭難白書）富山県山岳遭難対策協議会  
『山岳気象大全』猪熊隆之著 山と溪谷社  
『関西起点・沢登りルート100選』吉岡章著 山と溪谷社

### ●雑誌●

『岳人』No.768 6月号 東京新聞社

山と溪谷（株）インプレスコミュニケーションズ

### ●会報●

教職員生活福祉財団  
(財)健康・体力づくり事業財団  
(独)日本スポーツ振興センター  
大韓山岳連盟  
korean Alpine Federation  
中華民国山岳協会  
中国登山協会  
FECC  
(財)日本万歩クラブ

愛知県山岳連盟  
兵庫県山岳連盟  
横浜山岳会  
もんだにゆ会  
新潟県山岳協会  
日本ゲートボール協会  
(財)国立公園協会  
日本体育協会  
日本勤労者山岳連盟  
高校生新聞社  
全日本ボウリング協会  
中国登山協会

東京都山岳連盟  
日本体育協会  
日本山岳会  
東京野歩路会  
下関山岳会  
(公)日本体育協会  
京都大学ヒマラヤ研究会・高所プロジェクティブ堀井昌子  
日本山岳写真協会  
日本山岳会自然保護委員会

永井常務理事

- (5)「百万人の山と自然 安全のための知識と技術」公開講座特別委員会 5月18日(火)  
於：日本山岳ガイド協会 本木副会長
- (6)公認スポーツ指導者育成事業事務担当者会議 5月19日(水)～20日(金)  
於：岸記念体育会館 小野寺、蛭田常任委員
- (7)第12回KAZOクライミングカップ2011 5月22日(日)  
於：加須市民体育館 田中会長
- (8)平成23年度JOCコーチ会議 5月25日(水)  
於：味の素トレセン 中川事務局員
- (9)故大森薫雄氏偲ぶ会 5月28日(土)  
於：慈恵会医科大学高木会館2号館南講堂 内藤副会長
- (10)JOC選手強化委託事業説明会 5月30日(月)  
於：岸記念体育会館 中川事務局員
- (11)日体協競技団体評議員連合会総会 6月3日(金)  
於：岸記念体育会館 尾形常務理事
- (12)山口国体第2回基準会議 6月3日(金)～5日(日)  
於：山口県セミナーパーク 神崎副会長、高山、寺内、北山常務理事
- (13)第25回リード・ジャパンカップ(山口国体リハーサル大会) 6月4日(土)～5日(日)

於：山口県セミナーパーク 神崎副会長、高山、寺内、北山常務理事

- (14)国立登山研修所専門調査委員会 6月6日(月)～7日(火)  
於：富山・国立登山研修所 尾形常務理事
  - (15)財スポーツ安全協会評議員会・理事会 6月10日(金)  
於：東海大学交友会館「望星の間」 田中会長
  - (16)U A A A 理事会 6月15日(水)～20日(月)  
於：モンゴル・ウランバートル 八木原(副会長)、小野寺事務局員
  - (17)平成23年度指導委員総会 6月11日(土)～12日(日)  
於：東京・晴海 神崎副会長、永井、西内常務理事
  - (18)国際委員総会兼海外遭難対策研究会 6月18日(土)～19日(日)  
於：南アルプス芦安山岳館 内藤副会長、青木常務理事
  - (19)「ジュニア登山教室 in 立山」打合せ 6月17日(金)～18日(土)  
於：国立立山青少年の家、国立登山研修所 本木副会長、西内常務理事
  - (20)第13回日本ワールドゲームズ協会総会 6月23日(木)  
於：海洋船舶ビル 尾形常務理事
  - (21)遭難対策委員総会 6月25日(土)～26日(日)  
於：奈良県明日香村 國松(副会長)、西内常務理事
5. 後援、協賛等の依頼について  
(1)「百万人の山と自然 安全のた

めの知識と技術」公開講座(主催：JMGA)後援名義(承認)

- (2)「第12回 K A Z O クライミングカップ2011」(主催：埼玉岳連)後援名義(承認)
- (3)「コバトンボルダリングカップ in RC川越」(主催：埼玉岳連)後援名義(承認)

6. 報告

- (1)自然保護指導員の承認  
千葉 1名(新規)、25名(更新)(以上、承認)
- (2)指導員の認定承認
  - 1 上級指導員  
なし
  - 2 指導員  
なし
  - 3 S C 主任検定員  
なし

7. 通知、依頼、連絡、案内等 別紙の通り

8. 連絡事項

- 1 平成23年6月常務理事会  
6月9日(水) 17:30  
(岸記念体育会館504会議室)

編集後記

梅雨の晴れ間に、大菩薩嶺へ20人の女性と登った。2000mの稜線は空気も冷たく、落葉松の新緑と満開のトウゴクミツバツツジが美しい。ゆっくり歩く私達に「コンニチハ」と元気に挨拶しながら高校山岳部の男子隊がすれ違って行った。大きなザックを背に颯爽と歩く彼らは、初夏の風のように爽やかだった。  
(広報 本木 總子記)

HANDY GPS RECEIVER & LOGGER **ATLAS® ASG-2** 販売価格 12,600円(税込)

**GPSでアウトドアをもっと楽しく!**

最大5箇所の目的地(経由地)が登録可能。  
事前に休憩場所や寄り道先のポイント設定に活用!

- 位置情報と移動情報を表示・記録  
(リアルな数値情報とログ機能搭載)



株式会社 コピテル 〒108-0029 東京都港区芝浦4-12-33  
お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで TEL 03-3769-1190  
<https://atlas.yupiteru.co.jp>  
※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入もできます。

登山月報 第507号

定価 100円(送料別)  
予約年間 1,200円送料共  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月一回15日発行)

発行日 平成23年6月15日  
発行者 東京都渋谷区神南1の1  
岸記念体育会館内  
社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396  
FAX 03-3481-2395